

先天性歯

～生まれた時に歯が萌えてる？～

1.先天性歯とは？

赤ちゃんに歯が萌え始める時期は、平均的に生後6ヶ月前後です。しかしながら、稀に出生時に歯が萌えていたり、生後1, 2ヶ月のうちに歯が生え始めたりすることがあります。これが先天性歯です。

先天性歯は、生後6か月前後に萌えてくる正常な乳歯と比べて、構造が不完全で、たいていは茶色がかった色をしており、歯の表面にはザラザラして凸凹がありますし、エナメル質も一般的な乳歯に比べてもろくなっています。この状態をエナメル質形成不全といいます。また、先天性歯の根が未熟で動揺し、自然に抜けやすい(自然脱理)ものです。



2.先天性の影響

先天性歯は、乳児や母親の身体に色々な影響を及ぼすことがあります

- ①先天性歯が乳歯の場合、先天性歯が抜けても新たに乳歯が生えてこない(先天性歯が過剰歯の場合には先天性歯抜歯後乳歯が萌えてきます)
- ②先天性歯の自然脱落の場合、**気管**へ落ち気道閉塞する可能性がある
- ②乳児の**舌の裏側を傷つける**
- ③先天性歯周囲の清掃不良から**歯肉炎**が起こる
- ④**リガ・フェーデ病**を引き起こす(**授乳障害**)
- ⑤母体乳房を傷つける(**母体への障がい**)

3. 先天性歯への対応

先天性歯は、乳児と母親に問題が生じなければ基本的に経過観察することが一般的です。ただ、先天性歯の動揺が激しい際には自然脱落した後誤飲すると大変なので、動揺しているようなら早めに抜歯することがあります。また、先天性歯が原因で乳児の舌に潰瘍(傷)ができる、歯肉炎になる、母体の乳房が傷つくといった場合は、歯の先端を丸く削ることもあります。気になる場合は、早めに小児歯科医に相談してみましょう。



詳しくは院長までご相談ください



ふたぎ歯科医院

